

陪冢・大量器物埋納と 巨大古墳の時代 —軍事組織論を再考する—

2025年12月20日(土)～12月21日(日)

会場 奈良県立橿原考古学研究所 〒634-0065 奈良県橿原市畝傍町1番地

研究会参加費：1,000円・学生500円 事前申込み不要

(先着250名。今大会はオンライン同時配信はありません。)

懇親会：要事前申込み <https://forms.gle/BsDe63o9Dyz6C6cV7>

(予定人数に達した場合には受け付けを終了します。お早めに申込みください)



懇親会申込み

今回の武器研では、巨大古墳の時代の基準資料を見直します。古墳時代中期には巨大古墳の周辺に配置された陪冢を中心として大量の器物埋納の存在がよく知られています。

とくにそれらの出土資料群の中でも武器・武具にもとづく軍事組織に関する研究は、この時代の社会構造を復元する上で重要な役割を果たしてきました。しかしながら、これまでの研究はその多くを、古い調査報告に拠っています。また近年では、武器・武具はもちろん農具などの鉄製品や埴輪、土器など各種器物の研究が深化しています。陪冢出土資料の全体像を踏まえた研究も、あらためて検討の余地があるのではないかと考えます。そこで、本研究会では、武器・武具による軍事組織論のみならず、多角的な資料から巨大古墳の時代像を見直す機会にしたいと思います。

12月20日 13:00～17:00

田中晋作	陪冢から考える古墳時代中期の軍事と国家形成
橋本達也	陪冢・大量器物埋納研究と軍事組織論
木村 理	埴輪からみた陪冢の築造時期と墳墓階層
中久保辰夫	陪冢築造の背景と群集墳の質的变化

ポスターセッション
を行います。
参加者募集中
申し込み〆切 11/28
詳しくはホームページ
をご覧ください。

12月21日 9:30～15:00

樋口太地	事例紹介1：カトンボ山古墳出土鉄器の資料調査について
三好裕太郎	武器からみた鉄器大量埋納
平井洸史	農具副葬の意味—多量埋納事例の検討を中心に—
初村武寛	古墳時代中期における外来系遺物の導入・定着と陪冢出土の副葬品 —札式甲冑を中心として—
土屋隆史	事例紹介2：佐紀古墳群東群の陪冢資料
上田直弥	遺構からみた陪冢—埋葬・埋納遺構を中心に—

総合討議 司会：水野敏典・鈴木一有

共催：古代武器研究会・奈良県立橿原考古学研究所

<https://sites.google.com/view/bukiken>

〒630-8304 奈良市南肘塚町146-1 (公財)元興寺文化財研究所内 古代武器研究会事務局

本大会問い合わせ：hashi-mt(A)kaum.kagoshima-u.ac.jp ((A)=@) (橋本達也)

会場について問い合わせ：0744-24-1101 (奈良県立橿原考古学研究所)